

当館特派員の生徒が、先日(7/21)行われた美術館アカデミーに参加し、感想を書いてくれました(Facebook)。

Akito Kinoshita

先日、茨城県近代美術館で開かれた、島 剛氏による「西洋彫刻の本流はギリシア彫刻、そこから見えるロダン作《三つの影》」という講演会に参加して来ました。

これまで仏像や現代の彫刻以外にあまり興味を持ったことが無かったのですが、今回少し興味を持ちました。その理由は心を震わせるような凄い彫刻があることを知ることができたからです。

その中でも特に凄いなと思ったのが、「デルフォイの御者像」で、前5世紀前半にこんな完成されたものが作られていたら、本当に後の世代は何をすればいいのか分からないなとおもいました。

しかし、そこに新たな風をもたらしたのがロダンで、表現の可能性を追及するのではなく、量の可能性を追求するという所に着目したのが流石だなと思いました。確かに今の時代に合っているのは、鑑賞者に感情的なものを生み出すロダンかもしれません。

日本でこのような彫刻を生み出すことは、限りなく難しいと思われるので、海外からどんどん作品を借りられたら良いなと思いました。

7月22日 14:46 ・ 公開